

研究室 からの メッセージ

109

後列左から稲毛、福島、古戸
前列左から高瀬、結城

Data(2013年12月現在)

所在地：〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
スタッフ：結城美智子(教授)、高瀬佳苗(教授)、
稲毛映子(講師)、古戸順子(講師)、福島直美(助教)

http://www.fmu.ac.jp



福島県立医科大学看護学部 地域・在宅看護学部門

History and Now

どのような機関なのでしょう？

本学部は公立大学における全国初の看護学部として、1998年に福島県立医科大学に設立されました。また、福島県内では唯一の保健師養成課程をもつ看護系大学です。看護学部の組織としては、2011年の部門編成を経て地域・在宅看護部門となり、看護学部生の教育では保健師養成課程に関する科目を中心に担当しています。

Education

どのような教育をしていますか？

本学は、2012年度のカリキュラム改正以降も、保健師養成課程の科目履修を大学卒業必須としています。その理由の1つとして、2011年東日本大震災後さらに悪化した看護職の不足があり、本学部が福島県内唯一の看護系大学として、地域および在宅で活躍する保健師を養成する役割を担うことがあげられます。その一方で、看護学部開設から近年まで、地方自治体や企業からの保健師の募集も少なかったため、保健師として就職する学生数は卒業生の5~10%という状況が続いていました。しかし、今の福島県においては、病院や診療所、福祉施設、そして地域・在宅のさまざまな場所、さまざまな健康水準の人々に看護を提供する人材の育成が、本学の使命となっています。

Research

どのような研究をしていますか？

本部門の教員は、地域・在宅看護の実践のみならずと連携した研究を行い、その研究成果を地域看護の実践へ還元できるような研究テーマに取り組んでいます。具体的には、東日本大震災直後より、保健所や市町村の保健師らと被災者へ直接支援を行い、現在も被災者および被災支援者を対象とした活動を継続していますが、これを研究テーマとして発展させています。

Collaboration

地域の保健活動の現場とのつながりは？

保健師養成課程に関わる実習として、2012年から2年生を対象に保健所での「地域を理解する実習」が開始されました。この実習は、早い段階で保健師に接する機会となり、保健師を具体的にイメージできなかった学生にとって、将来自分がなりたい看護職を決定するうえで大変参考になっています。これまでの4年生の市町村実習とあわせ、地域看護学と地域看護活動が結びつけられるような実習の展開に向けて、市町村保健師および保健所保健師と強力な連携を進めているところです。

ひとこと

本学部から卒業生が輩出して12年が経過し、卒業生の多くは保健師として中堅になりました。現在の福島県では卒業生の1人ひとりが自らの判断で主体的な看護活動を実践することが期待されています。したがって、地域・在宅看護学部門では、そのような学生を育て看護の場に送り出すよう教育に力を注ぎたいと考えております。

……高瀬

あなたの研究室を紹介してください！ 保健師ジャーナルでは、このページに登場してくださる研究室(保健師教育に関わる講座・分野・領域)を募集中です。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりを紹介してください。
応募について●まず電話、FAX、E-mailにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。
連絡先●医学書院「保健師ジャーナル」編集室 ☎ 03-3817-5774 FAX 03-5804-0485 ✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp